

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十一月度 入選句（投稿総数三千二百六十六句・一般投句数八百九十六句）

特選

抱く嬰の欠伸まんまる小六月

大垣市

大西 誠一

小六月・小春は旧暦十月の異称で太陽暦の十一月頃。初冬の冷さの中で暖かい春の陽気を思わせる日和が続くことがある。

生まれて間も無い赤子の欠伸を見て和やかな気分になった。それを、まんまる・小六月と表現した。嬰兒の健やかな成長を願う。

甲斐駒と木曾駒つなぐ秋の雲

愛知県岡崎市

足立 山歩

秋の雲は数千メートル上空に発生し、湧いては消えをくり返す。見ていて変化がある。

甲斐駒（東駒）二九六七メートル・木曾駒（西駒）二九五六メートルを伊那盆地から見た景色であらう。澄み渡って高い空に漂う白い雲。山も雲も空も風も意思があるようだ。

仏檀の祖父と乾杯今年酒

大垣市

木村 一句

今年酒・新走・新酒は、その年に摂れた穫れた新米で醸造した酒で、神前に供えられた。

生前の祖父と酒を酌み交したことがあるのか、ないのか分からないが祖父との思い出が溢れる一句である。彼の世の祖父も喜んで乾杯されていることであらう。

秀逸

秋の雨きのふ伊吹のありし窓

東京都荒川区

金沢 寛

手に馴染む杖ことごとと秋高し

大垣市

林 芳江

沈黙も会話の一つ秋彼岸

大垣市

澤井 国造

選外の菊にも水をたつぷりと

養老郡養老町

田中 紫香

恙なく暮れゆく一日菊の酒

大垣市

新町 恵子

雑貨屋に荒縄積まれ冬に入る

安八郡神戸町

高橋 泰

八千草の風やはらかく伊吹晴

大垣市

秋山 くに子

初時雨飛驒の大屋根深ひさし

大垣市

田中 雅子

山彦の向ふの山も秋の山

大垣市

宮脇 眞

鍵穴に合ふ鍵ひとつ神の留守

大垣市

矢橋 郁子

入選

たらひ舟乗りませんかと小鳥来る
縮みゆく背を伸ばしての柿ちぎり
木曾三川やがて銀河に合流す
百畳の坊に座りて後の月
日の匂ひ散らして早稲の刈られけり
山寺の和尚鐘つく秋の暮
雲上に浮かぶ御獄冬隣
縁側で夫婦で食べる柿ひとつ
母になき晩年を生く冬もみぢ
主婦の手に喜びを研ぐ今年米

愛知県半田市 加藤 清美
大垣市 奥田 和子
大垣市 神野 武彦
大垣市 大西 誠一
大垣市 日比野 友子
不破郡垂井町 高木 紫雲
大垣市 久保田 悟義
大垣市 傍島 隆
大垣市 安八郡輪之内町 野村 照子
福井県福井市 三ツ山 シゲ子

入選

小鳥来る砂山の砂崩れさふ
堅魚木の金の耀き小鳥くる
榎の実や門に陣屋と記されをり
跳ねながら秋を振り撒く園児たち
端々にみちのく訛秋深む
鉄瓶の湯たぎる音や冬座敷
小春日の長椅子たれか来るを待つ
鳩吹くや遊びし原も駐車場
蜻蛉の青き瞳に青き空
供華のなき武将の墓や木の実雨

大垣市 中山 あや子
大垣市 野村 多佳子
大垣市 三宅 ヒサエ
大垣市 町野 眞佐子
大垣市 伊藤 有紀
大垣市 伊藤 有紀
大垣市 名和 よちゑ
大垣市 佐久間 清観
埼玉県越谷市 森 茂寿
大垣市 森 茂寿
北海道小樽市 大橋 美彌

選者吟

新大使迎ふる馬車や黄葉晴れ

武直